

水の神

上谷中を歩く

梅雨入り前の水田では、用水が満たされ稲がすくすくと育っています。昭和30年代になって市内各所で土地改良による耕地整理が進められ、農業用水は大利根用水、北総東部用水事業などの完成により安定して供給されるようになりました。

1884年(明治17年)の地図を見ると、市域南部の平坦地に数か所の沼があります。そのほとんどが耕地整理

で水田となり、現在残っているのは須賀地区の「道ノ口沼」と平和地区の「下谷沼」だけです。

下谷沼のある上谷中区は、上谷・下谷・新宿(にいじま)の集落からなります。

江戸時代はじめ、匠瑛郡内には2つの「谷中村」が存在し、うち一つが「上谷中村」となりました。「谷中」という地名は湿地や沼地にある集落とされ、現在横芝光町に所在する谷中区に対し、東方に位置すること「上」が付けられたとも考えられます。そのきっかけは、1661年に村の支配者が代わったことでしょう。新宿地先にある1680年の庚申塔(こうしんとう)には「谷中村」と刻まれていて、正式な村名が浸透するまでにはかなりの年月を要したのでしょうか。

江戸時代の上谷中村は、周辺村むらとの用排水をめぐる争いや村内での上谷、下谷の集落同士の対立などにたびたび直面しました。記録に残る

ものでは、1745年ごろから1867年ごろまでくり返されました。

明治10年代の『千葉県神社明細帳』に上谷中村の神社として稲荷神社のほか「島姫神社」などが記載されています。同神社は『明細帳』に、「下谷沼の小島にあり」とあることから、水争いに苦しむ村人たちが石宮でも祭り、天の恵みを神に祈ったのでしょう。「水の神」としては水神様や弁天様が知られますが、島姫神社にも同様な信仰があります。

下谷沼は昭和7、8年の干ばつの時に2年かけて沼を掘り下げ、同36年の土地改良の際には将来の用水のために残したと、説明板に記されています。下谷の島姫神社は『明細帳』に記載されるのみで、今は跡形もありませんが、沼が改修された際に役割を終えたのかも知れません。

「下谷沼」が残されたことで、長い間農民たちを苦しめてきた用排水問題の歴史や沼の果たした重要な役割が今後とも伝えられることでしょう。

(元 市職員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080



下谷沼の歴史を伝える説明板